

世界連邦宣言

# いまひとつの世界を

自治体協新聞

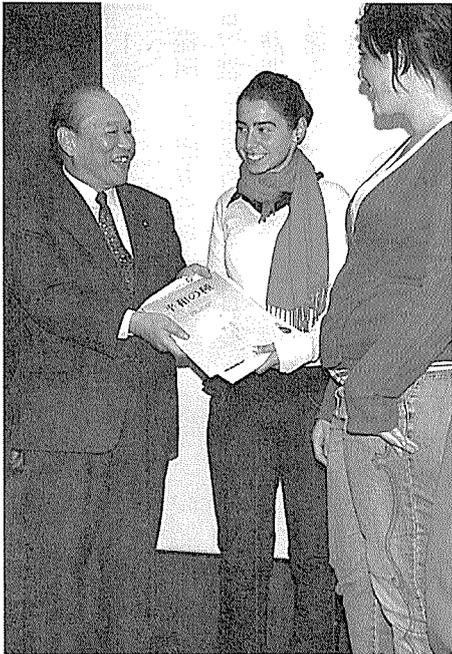
発行  
世界連邦宣言自治体  
全国協議会  
(事務局=綾部市)  
〒623-8501綾部市若竹町8-1  
TEL (0773) 42-3280  
FAX (0773) 42-4406

## 中東で絵本を贈呈 プロジェクト再開に努力

本会の中東和平訪問団が1月19〜26日の日程で、イスラエルとパレスチナをそれぞれ訪れました。本会が作製した絵本「平和の種」を現地の学校で贈呈したほか、双方の政府要人と面談。中東和平会談の日本開催を提案するなど、遠く離れていても平和を願う私たちの思いを直接伝えました。

### 来日した青年たちと再会

訪問団は▽四方八洲男会長  
▽監事の栗山正隆・亀岡市長



平成15年の綾部プロジェクトで来日したパレスチナのラウン・カマルさん(20)に絵本を手渡す四方会長(左)=20日、エルサレム市

の代理、畠山一樹・同市副市長▽税所涼子・世界連邦運動協会大阪府支部長(自費参加)▽通訳▽事務局―の計5人。

訪問団は20日、イスラエル・エルサレム市内で、これまでの中東和平プロジェクトで来日した6人を含む青年20人と交流。中東和平を願って本会が作った絵本「平和の種」を、青年たちに贈りました。

これに対し参加者は「日本での交流を通して相手のことが理解できた。これが大きな成果だった」「日本人には文化や習慣、宗教などの違いを認める寛容な気質があることを学んだ」などと発言。訪問団は、プロジェクトの開催意義の大きさを再認識し、互いにプロジェクトの再開に努力することを確認しました。

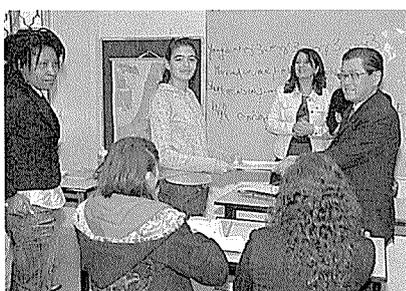
### 双方の外務副大臣と面談

21日にはイスラエルのマジヤリー・ワハバ外務副大臣と面談。中東和平会談を京都で開催するよう提案しました。ワハバ氏は「和平への取り組みに感謝する。日本人は環境の違う立場の人も受け入れられる寛容性を持つ。日本との良好な関係を今後も続けていきたい」と述べました。22日にはイスラエル・テルアビブ市内の学校を訪問。中



森清範・清水寺貴主が揮毫した掛け軸をワハバ外務副大臣に贈呈=21日、エルサレム市

東和平プロジェクトや絵本作製の趣旨を説明した後、子どもたちに絵本を手渡し、遠く離れた日本でも和平を願っていることを伝えました。



学校で子どもたちに絵本を贈る畠中一樹・亀岡市副市長(右)=22日、テルアビブ市

翌23日には、ラマラ市のパレスチナ外務省を訪問。ソバ・アハメッド外務副大臣に会い、和平会談の日本開催を提案しました。アハメッド氏は「大変な難い提案。アッバス大統領に伝える。日本は舞台とし

て最適。子どもたちの交流イベントにも希望を持っていて」と前向きな姿勢を示しました。この後、同市内の学校で絵本を贈呈しました。

### 日本の都市と交流を希望

23日午後にはジャネット・ミカエル・ラマラ市長、ウリ・ルポリアンスキー・エルサレム市長とそれぞれ会談。ラマラ市長からは「和平プロジェクト



ミカエル市長(左)に絵本の説明をする四方会長(中央)=23日、ラマラ市

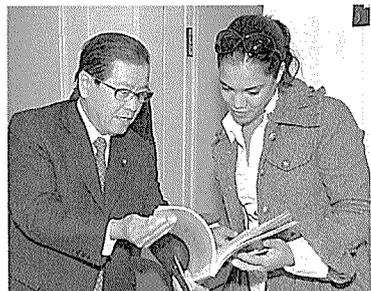
クトには積極的に協力する」、エルサレム市長からは「絵本は素晴らしい内容。我々も和平の実現を願っている」との発言がありました。

また、ラマラ市長は会談の中で、日本の都市との友好交流を希望。これに対し、四方会長は「世界連邦宣言自治体

協議会の加盟自治体に希望を募る」と答えました。

### 1滴の水も大河に――

帰国した四方会長は1月28日、綾部市役所で記者会見し「訪問先ではプロジェクトの再開を望む人が多かった。今年は何とか実施したい。和平会談を日本で開催するよう提案したが、だれもが好意的だった。日本が貢献すれば実現は不可能ではない。1滴水も集まれば大河となる。今後も草の根の活動を続けていきたい」と述べました。



亀岡プロジェクトで来日予定だったパレスチナ平和センターのインバルさんに絵本を贈る島中副市長=22日、テルアビブ市

同行した島中一樹・亀岡市副市長は帰国後「紛争の激化で実現しなかった亀岡プロジェクト。中東の平和と友好交流を願う市民のメッセージを伝えるため、多くの現地の関係者と交流し、目的が達成で



テルアビブ大学では教職員や学生と意見交換=24日、テルアビブ市

きた。特に、小・中学生や青少年との交流を通じ、彼らの持つ無限の可能性に未来への期待が膨らみ、何としても中

## 加盟自治体の活動②

### 京都府亀岡市

東の地に平和の種をまき、花を咲かせねばと痛感した」と感想を述べています。イスラエルとパレスチナの紛争遺児を招く中東和平プロジェクトは、綾部市から岡山市、徳島市、亀岡市へと継承。平成18年の亀岡プロジェクトがやむなく中止となった代わりに、プロジェクトを題材にした絵本「平和の種」を作製。現地の子どもたちに絵本を贈り、私たちの平和への願いを直接伝えました。



太陽光から「平和の灯」を採火（平和祈念式典）

亀岡市は、旧亀岡町時代の昭和27年11月、日本で2番目となる世界連邦平和都市を宣言しました。以来、市民との協調のもと、さまざまな平和の取り組みを進めています。昭和28年には、戦没者と水害犠牲者を祭る「平和塔」を建立。毎年8月7日に塔前で平和祈念式典を開催しています。同時に8月を平和月間と位置付け、亀岡駅前で行う大踊り大会や保津川の夜空を染める

や「平和の手紙」を募集し、寄せられた思いを市内各所で展示するとともに、その一部を国連本部に送付するなど、亀岡の平和の願いを内外に発信しました。平成14年には、京都学園大学の学生と共同して平和の歌「うつくしもの」を制作。この歌は、学校や歌唱サークルがさまざまな場面で歌い、今では、平和交流を通じて岡山や徳島などでも広く演奏されています。

### 広島訪れ平和学習も

さらに平成15年からは、小学生親子が原爆被災地・広島を訪れ、平和について考える「ヒロシマに学ぶ親子平和の旅」を実施。現在まで99組211名の親子が原爆の惨禍や平和の尊さについて学び語り



「ヒロシマに学ぶ親子平和の旅」の参加者（広島平和記念公園）

合いました。平成17、19年には市内の戦争遺跡を調査し、報告書の作成と併せて「戦争平和展」を開催しました。綾部、岡山、徳島市に続き、平成18年には「中東和平プロジェクト」の実施を計画しましたが、紛争激化により招待していた子どもたちの出国が



現地に対面したイスラエルとパレスチナの子どもたち（中東和平亀岡プロジェクト）

変更して「市民平和交流大会」を開催しました。しかし、事業の中止から7か月後の昨年3月、外務省をはじめ関係機関の多大な協力により、来日予定であった子どもたちが現地に